

五領域別個別支援プログラム内容		支援例
「健康・生活」	(a) 健康状態の把握	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の常なるチェックと必要な対応を行う。その際、意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達過程・特性等に配慮し、小さなサインから心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行う。
	(b) 健康の増進	睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。
	(c) リハビリテーションの実施	日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもの適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。
	(d) 基本的な生活スキルの獲得	身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。
	(e) 構造化等により生活環境を整える	生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるような環境を整える。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。
「運動・感覚」	(a) 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上	日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。
	(b) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、姿勢保持装置など、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。
	(c) 身体の移動能力の向上	自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。
	(d) 保有する感覚の活用	保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。
	(e) 感覚の補助及び代行手段の活用	保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。
	(f) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応	感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。
「運動・感覚」	(a) 感覚や認知の活用	視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行う。
	(b) 知覚から行動への認知過程の発達	環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。
	(c) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。
	(d) 数量、大小、色等の習得	数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援を行う。

支援例

お迎え時の体温測定、状態観察。発語のないお子さんや、医療的ケア児へは看護師が対応。区分1～3の児童へはそれぞれタイムスケジュール表作成し日常ケアを漏れなく正しく実行できるよう管理している。休日朝の会で予定スケジュールを発表し、逆算思考でタイムスケジュールを児童と計画する。実行後帰りの会で振り返り、次回改善ポイントを提案しあう。時間が足りないときは次回休日に振り返りからスタートし、対策して改善を繰り返す経験を積む機会の提供を行う。

食事技術の向上については自立課題で練習し、食事の時には栄養を摂取する意欲の減退にならないように支援。※疲れて食べなくなる方や、落として摂取量が減るなどを避ける。排泄や水分摂取は「来た時、来た時から2時間、帰る前」など個別に対応。夜間睡眠や日中活動量での疲労状況を観察して午睡の支援も適宜行う。昼夜逆転しているなどの場合、タイマーセットし15分などで対応。保護者と連絡を取り、家庭の方針と沿うように設計。

ST、ビジョントレーニング(ビジョントレーニング初級認定講座受講者2名あり)、看護師による日常生活行動の繰り返し自立訓練、必要に応じて栄養評価(看護師→嘱託医師へ相談※毎月の訪問時)、自己選択時間も個別療育の後に選択肢を複数提示し、選ぶこと、逆算思考でのタイムマネジメントなど繰り返し実行。切り替えが徐々に短くなっているか、どんな時にこだわりが出るかを自然行動の観察を行った上で評価し人生軸上先の未来で社会での共生に有効な手立てを考案し、保護者本人に情報提供。ビジョンチェックやSTによる発達検査も必要に応じて実施。

食事技術の向上については自立課題で練習し、食事の時には栄養を摂取する意欲の減退にならないように支援。※疲れて食べなくなる方や、落として摂取量が減るなどを避ける。排泄や水分摂取は「来た時、来た時から2時間、帰る前」など個別に対応。視覚表示やビデオカメラ機能で自己を客観視して子どもが自分で姿勢をなおす様子を横で見守り、〇がどんな力加減なのか視覚聴覚でも認識しやすいように補助。座り方見本はラミネートの教材等準備がある。当たり前と社会で判断される行動がとりにくい背景には、そもそもの体幹バランスの問題(入力)機能の弱さ、五感と前庭覚固有覚の凸凹、筋肉と神経の接続部分の運動の悪さから、実行(出力)機能の弱さを認める状況の時は、この部分と継続できるメンタル強化を中心とし、長時間座学による学習への嫌悪感や時間縛りによる積み重ねの分断を避ける目的で、児童が楽しみながら積み重ねられるようになるまで一定期間同じ課題を励まし積み重ねを見て取れるように工夫と配慮、目的とゴールイメージを持たせて迷いなく行動できるようにあれもこれも手を出さない工夫をしている。身体障がいが高く、動かす部分が少ない方も、声掛けや代理執行を経て、共同参画意識が持てるようにし、一部分役割を担っていただき、「できた」を増やす、興味を示していただけるようにしている。

お子さんに合わせて具体物や写真で示し、状況に応じて活動の流れを貼るが、考える力や逆算思考を育てるときには掲示せずにゴール設定を述べ、ゴールに向かうためにどんなタスクがあるか朝の会などで意見を出してもらい、スケジュールを書き出し、実行後振り返る一連の手順も長期休暇や休日に実行するようにしている。

ST、ビジョントレーニング(ビジョントレーニング初級認定講座受講者2名あり)、看護師による日常生活行動の繰り返し自立訓練、感覚統合訓練の実施。看護師による作業療法(急性期・回復期リハビリ病棟勤務経験看護師3名在籍)段階に応じてマンツーマンでのふれあい遊び時にミラーリング実施、具体物に児童が行動したタイミングで生じる音を擬音で代弁し、模倣から発音・発声へ、人への興味関心から繰り返し期待して実行するか観察し児童の興味関心の幅を図る。好きなものもしくは観察する中で楽しくはなさそうだが児童が自然行動で繰り返す行動が頑張る力につながる場合が多い。ここに着目し、ビジョントレーニング・STトレーニングを見てきたなかで組み合わせられそうなものを支援者が汲み取り、自然発生の遊びの中にさりげなくトレーニングを入れ嫌悪感なく積み重ねられるように工夫している。季節の工作などは児童の現状の力より少し下位の課題にし、楽々積み重ねられるもので提供し、楽しくもないけど納品できたことを積み重ねている。祭りやイベント時に自己の作品が景品として誰かに喜ばれる経験から、作成意欲が高まる児童も多く、就労への意識が育まれる機会となっている。夏やクリスマスには取り入れている。興味関心のない子へは代弁や、代理での良いフィードバック「感謝」「喜び」で表現し、情緒面の発達機会を自然に作るようにしている。ことばのない世界の子も心の温度計は持っており、ことばの意味は理解してなくても、快不快ははっきりわかる。長期的なかかわりをして初めて成果が実るため、愚直に信じて積み重ね「育ちますように」と期待をかけてじっくり楽しみながら見守る心のゆとりを我々支援者は意識し、芽が出たときにともに心から喜ぶことを大事にしている。失敗はだれが決めるの？失敗って何？という視点で考え、「失敗しているのではなく積み重ねているんだよね」という共通認識で子どもたちにも、何個も何個も積み重ねてやっとならなくていいんだよ。うまくできなかっただけで、今考えるのはつぎはうまくやるにはどう工夫してみようか、それだけを一生懸命考えて、何度でもやってみるんだよ。考えて工夫しないと結果はかわらないよ。振り返って、わからなかったら手伝ってもらっても、見本を見せてもらってもいいんだよ。どうしてもできないことはお願いしてだれかにやってもらって、自分のできることでその人の役に立つことでお返しするのもいいんだよ。ということを繰り返し活動しながら話している。

脳トレーニング・ビジョントレーニングを実施。教材は様々な遊びで、初めは3原色から等基本は一般保育と変わらない。タングラムやおはじきでの数字の理解、視覚・触覚・固有覚・前庭覚を刺激できる教材を作成し、使用している。1～5までではじめ、徐々に段階をステップアップしている。買い物学習でも具体物を見て、計算機を使うなど繰り返し学習している。コミュニケーションを中心に、子どもの自然行動を観察し、そこに出てきた課題に応じて認知のゆがみやパーソナリティ部分の困りを評価する。自信のなさは、自己否定感情を感じる場面が生活時間の中で多いということで、イメージはできるのに(入力から認知思考判断までは興味関心の高いものについて高い機能を発揮する)実行機能に困りが生じており、自己否定の回数が増えていたり、他者から能力を低く見積もられプライドが傷ついてしまうことが日常のあらゆる些細な場面で起きていることが多い。

「運動・感覚」	(e) 認知の偏りへの対応	認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりや偏食等に対する支援を行う。	その結果「下げ落とし」「自己憐憫」「開き直りによる回避」「やらない選択による学習機会の喪失」など繰り返している児童が多く存在する。思春期になればなるほど顕著になり、こじらせていく。「破壊衝動」「自傷・他傷」もほとんどが根底にこの感覚があり、重低に関わらず見られる症状である。健常の方にも大なり小なりある。こういった基本を押さえて現場で観察し、違和感を共有して「子どもの最善の権利の保障」の観点で、「マインドフルネス」「セルフメンタルケア」「積み重ねの技術」「人生は実験である」「おとも失敗を隠さず、素直に謝り、次の行動を修正して成功する一連を見せる」「同じ人間同士としてかわり敬意を払う」そういったことを大切にしたいうえで、学習の機会を子どもが安心して受け取り、迷いなく積み上げられる環境設定を一番大切にしている。
	(f) 行動障害への予防及び対応	感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行う。	
「コミュニケーション」	(a) 言語の形成と活用	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等により、体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援を行う。	STとビジョントレーニング、コミック会話や絵本、ごっこ遊び、運筆や読字、音読、対話実践の中で強化する。ことばのない世界の子も言語以外で関わり、共通認識のやりとりを増やし楽しみながら機能向上を行う。心の温度計と、実際に発言する内容は支援者は必ず一致させる努力をし、調子が悪いときは他の支援者に助けを求め、子どもに違和感や不信感情が募らないように配慮する。自らを大切に、児童も大切に。心と言葉が一致しないほど自らを私生活で大切にできていない人は支援はできないと言ったことを念頭に置き、自分も今日積み重ねたことを認め、労うからこそ、子どもたちにも自然な誉め言葉が出せると言う心理手順を間違えないように心がけている。
	(b) 受容言語と表出言語の支援	話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行う。	子どもたちの居心地の良し悪しはその環境にいる大人の心の温度計と言葉の不一致によるものであると心得、技術提供や決められたことを遂行すると同時に、心の温度計と言語の一致を行う。子どもとともに過ごしやすい空間や環境にするために、自分ができることは何かを考え、チームで共有し支援力を高める。
	(c) 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得	個々に配慮された場面における人との相互作用を通して、共同注意の獲得等を含めたコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。	自分に興味関心のない大人、ただの仕事と割り切る大人に子どもは心を開かない。試し行動で果敢に接触する子どもも中にはいるが、興味関心の持てない大人は子どもの支援に従事してはいけない。(傷つきが生じ双方不幸になる。)
	(d) 指差し、身振り、サイン等の活用	指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	人として敬意を持ちながら、ときに友人のように、親のように、本音で摩擦して気持ちを伝えあい、心とことばの力加減を覚えていく壁打ち相手を務め、育ちをともに喜ぶ過程が必須であることを念頭に置き支援する。
	(e) 読み書き能力の向上のための支援	発達障害の子どもなど、障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。	必ず保護者にも事実を伝え、共有していく。
	(f) コミュニケーション機器の活用	各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。	
	(g) 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用	手話、点字、音声、文字、触覚、平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。	
「人間関係・社会性」	(a) アタッチメント(愛着行動)の形成	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。	繰り返しになるが、「子どもの最善の権利の保障」の観点で、「マインドフルネス」「セルフメンタルケア」「積み重ねの技術」「人生は実験である」「おとも失敗を隠さず、素直に謝り、次の行動を修正して成功する一連を見せる」「同じ人間同士としてかわり敬意を払う」そういったことを大切にしたいうえで、学習の機会を子どもが安心して受け取り、迷いなく積み上げられる環境設定を一番大切にしている。
	(b) 模倣行動の支援	遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。	発達段階は作業療法士監修の発達の見立て資料と、ビジョントレーニングのメソッドに基づき原始反射の残存を観察し見立てる。またSTがある方は経過評価を見て、集中力が高いときとの差異を踏まえ瞬間的に発揮できる力と、耐久性持久性の課題なども合わせて観察。
	(c) 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援	感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	作業をさせることや、ただやみくもに遊ぶことも結果は継続すれば伴うが、四半期ごとに担当者ですり合わせ、日々やることを大きく変更しないことで積み重ねる機会を多く取れるように支援を組んでいる。
	(d) 一人遊びから協同遊びへの支援	周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。	例) 迎え ただいま 手洗い・荷物管理 トイレ 水分 個別トレーニング ビジョンAファイル ※自由遊び(選択肢6種類前後視覚表示から選ぶ または 環境内にあるもので意思表示をして実行) おやつ 自己選択 予算50円 水分 トイレ 片付け 帰りの会 今日の出来事発表 楽しかった、楽しくなかった 絵本読み聞かせや、しまじろうのやってみよう(15分程度)など動画教材で知識の入り 道徳学習、リズム遊びなどを子どもたちのリクエストに沿いながら実施。 送り
	(e) 自己の理解とコントロールのための支援	大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。	※この間に観察や意味のある言葉のやり取り、社会性を育む。 完全にやるのが決まりすぎると子どもどうしでの創造性や、主体性、自己選択力 自己の決定に責任を持つ力、村社会での双方バランスの取れるやりとりを学ぶ機会 が得にくい。大人も「大人力」が試されるため苦しむが双方学ぶ機会と捉え試行錯誤 課題解決を図る中で成長をしていく。
	(f) 集団への参加への支援	集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。	時間の短い子※下校時間が遅れた、6時間授業などは、ビジョントレーニングセットの4つのうち1つ目の8方向のストレッチ(眼筋と神経の伝達をスムーズにするためのトレーニング)を実施して、遊びの時間の保障も行う。 お疲れが目に見えて睡眠優先な子や、基礎疾患があり病み上がり・なんだかいつもと違う元気がなさそうな子は保護者と連絡を取るなど臨機応変に対応する。